

神々の古事記  
本殿（右殿）・稲荷社

## 「八雲立つ」

八俣の大蛇を退治した須佐之男命は、櫛名田比売との婚儀を行うため、出雲の国に宮殿を建てることにしました。

この地に宮殿をつくろうとしたとき、白い雲が幾重にも立ちのぼるさまを見て命が歌を詠まれた。

「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣作る その八重垣を」

そして、櫛名田比売と結ばれ、八島士奴美神が生まれました。

また、大山津見神の娘、神大市比売を妻として、穀物の神である大年神、同じく宇迦之御魂神を生ませました。

この八島士奴美神より五代先に大国主神が誕生します。

その後、須佐之男命は母の国を訪ね根堅洲国へと旅立ちました。



廣峯神社の本殿（向かって左側）には、素戔嗚尊の御子神である大年神、さらに孫神等が祀られています。この大年神は年神さまと呼ばれ、正月に飾る門松や鏡餅はこの神さまを迎える依代であり、毎年、新年にやってくる大変おめでたい神さまでもあります。

本殿裏にある稲荷社に祀られているのが倉稻魂命（宇迦之御魂神）で、一般には商売繁盛の神さまとして有名です。しかし本来は、五穀（米、麦、粟、きび、豆）と養蚕を司る穀物神であり、産業振興や家内安全、芸能上達でも信仰される人気の神さまです。

歌を詠んだ素戔嗚尊は、文学、学問の神さまでもあります。